

No. 13 株式会社森田木工所

[事業実施テーマ]

国産材を活用した新たな接着工程による燻製材 (スモークウッド) の製造方法の構築

[会社概要]

- 代表者名／代表取締役社長 森田 茂
- 所在地／〒427-0018 島田市旭 3-6-20
- 取材地／同所在地
- 設立年月／昭和 43 年
- 資本金／10,000,000 円
- TEL／0547-36-5611
- URL／<http://www2.wbs.ne.jp/~morita-w/>



企業紹介



取材中の森田社長

取り組みの経緯



補助事業で導入した製造ライン

取り組みの内容



プレス製造工程

結果



燻製材の製品

島田市特産の空板から燻製材まで

当社は、昭和43年に創業し、島田市の特産である空板(蒲鉾板)を主力製品として製造加工し、全国の主要蒲鉾メーカーに販売している。

特徴は、原木から最終製品まで木材を一貫して活用、蒲鉾板から出るオガ屑などを活用して、実験動物用床敷、燻製材(スモークウッド)を製造、きのこ用オガ粉を販売するなど、殆ど廃棄材を出さない生産体制を敷いていることである。

また、島田空板工業協同組合(組合員5社)に設立時から参画し、原木丸太の製材及び乾燥した半製品を共同で加工し、最終製品(蒲鉾板)を自社で製造している。

そのような中、約30年前に蒲鉾メーカーから、燻製蒲鉾を製造したいとの相談を受け、国産材サクラのオガ粉を圧縮して固めた燻製材を製造販売し始めた。現在では、燻製材を年間約30万本販売しており、更にその需要は拡大している。

アウトドアブームで注文が増加

燻製材の当初の生産量は少量であったが、約10年前からアウトドアメーカーより販売する打診を受け、全国のホームセンター・スポーツ用品店などで販売されるようになった。

そして、近年のアウトドアブームにより「燻製料理」が注目され、テレビ番組でもTBS「マツコの知らない世界」(平成26年12月放送)・NHK「きょうの料理」(平成27年7月放送)など、数々の燻製料理の特集番組が放送された。

また、大手電機メーカーでは、家庭用燻製機が販売され、今までのアウトドア市場から家庭用用品市場に拡大しようとしている。

これに伴い、益々安心安全な燻製材が求められており、今回の補助事業では結着材を使用しない製造方法を構築することとなった。

結着材を使用しない製造方法の確立

これまでの生産工程では、次の問題点が挙げられる。

- ①結着材を使用しての製造であり、結着材無しでの製造が不可であった。
- ②機械の能力(スピード)上、増産が無理なこと。
- ③製造ラインが1ラインしかない為、機械が故障したときのバックアップができないこと。
- ④製造能力不足により、販売の機会損失が生じている。

結着材を使用しない為に、チップ状の原料を粉碎することにしたが、ただ細かな粉碎だけでは、プレスした際に強度が出ないことがわかり、ある程度木材の繊維質が残るように粉碎しないと、十分な強度がでないことが判明した。

数社の粉碎機メーカーにテストを依頼し、粉碎試験をした結果、最良の粉碎形状を見つけることができた。

そこで、実際の粉碎ミルにおける製品化テストを実施し、その製品化にむけたテストを静岡県工業技術研究所の協力を得て実施した。

その結果、従来品と比較して約1.6倍の強度を得ることができ粉碎機を使用した燻製材の製品化に目途がついた。

森林の有効活用 東日本大震災復興の一助に

補助事業では、現状の製造ラインの不具合箇所を見直し、機械設計、機械の性能テスト・動作確認、性能評価・改善、製品を試作し性能を確認する作業に取り組んだ。

今回の取り組み効果は、①結着材を使用しないことにより、ユーザーの希望に沿う製品ができ、更に安心安全なものとなった。②製造販売数量が約2倍となったため、販売数量の増加に対し製品の納期短縮と機会喪失の解消となった。③補助事業実施前の年間売上本数が30万本から55万本を見込むこととなった。

燻製材の原料はすべて国産の広葉樹(サクラ、ナラ、クルミ等)を使用しており、原産地は北関東から東北にかけての原木を使用している。

東日本大震災以来放射線の影響で現状では使用できない原木もあるが、徐々にその数値は減少し、今後は使用できる状態になるとのことであった。

広葉樹の活用は、低付加価値のものが多く、当社の燻製材は高付加価値商品として、今後も森林の有効活用に繋がり、微力ながら東日本大震災の一助になることが期待されている。